

トランプの矛盾とドルの優位性

魅力的な人間は往々にして矛盾した言動が多い。普通の人の思考の範囲を超えるので驚きや軽蔑の対象になりやすいが、想像を超える成果で大きな称賛を浴びることもある。

トランプ大統領の特徴はその矛盾した言動と政策にある。彼の主張する減税、規制緩和、移民政策などはインフレ、金利上昇をもたらす可能性が高いが、彼は貿易赤字の解消、ドル安、金利低下を志向する。これらの政策は矛盾に満ち批判にさらされる。だがトランプがこの矛盾を止揚できれば大きな称賛が待つ。

ただトレーダーなどにとっては市場の変動幅が大きくなり収益チャンスが増すのでトランプの矛盾は魅力的に違いない。

こうした矛盾の一例だが、先月末トランプは SNS で BRICS 諸国を強く批判した。BRICS はブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカのオリジナルグループにエジプトやイランなどが加わった主要な新興国グループだ。そのグループでの非ドル通貨での取引促進やドルに代わる準備通貨の創設などの動きに対してけん制した。そうした動きを止めない場合、100%の関税を課するというブラフだ。

こうした BRICS 諸国の動向に対してバイデン政権は何も言ってこなかった。現在のドル一極体制が BRICS によって脅かされることはないとの認識があるのと、BRICS 諸国の中でもロシアと中国は積極的だが、インドは消極的だ。ブラジルは決済でのドル離れには乗るが、準備通貨のドル離れには現実味がないとの考えだ。つまりグループとしてのまとまりに欠けるからだ。

ただ BRICS の動きは米国が経済制裁でドルを利用することに起因する。貿易の決済や準備通貨としての価値保全でドルに大きく依存する従来のシステムではドル利用を制限する経済制裁は大きな脅威になる。だから BRICS は代替通貨や代替システムを模索する。だがトランプはそれを許さない。

BRICS としては道理に合わないと思うのは当然だが、今のところ目立った反論はない。ならば水面下でドル離れを進めるしかない。まさに鄧小平のとう光養晦の路線だがそれを否定した習近平はどう考えるのか。

俯瞰してみれば準備通貨としてのドルの割合は長期低減傾向にある。今やドルの世界の外貨準備に占める割合は 50% 台の後半まで減少している。経済、軍事、政治などの分野で米国が圧倒していた時代のドル一極体制と現在は異なる。その中でトランプの主張はある意味で時代錯誤的にも聞こえる。ここにも矛盾がある。

それにトランプがドルの一極体制を維持しようとするなら、ドル高政策が必要になる。世界が米国の資本市場に投資を継続することでドルの基軸通貨としての役割が果たせる。米国の財政赤字が予想以上に拡大し、海外からの資本流入が必要な状況で政府がドル安方針を取れば、ドルは暴落する可能性がある。

こうした矛盾をトランプがどれほど理解しているか不明だが、矛盾を止揚する方策を抱いているとすれば脱帽だが、そうでなくても財務長官に任命したベッセントなどの意見を取り入れ自らの主張を修正し、結果として世界の成長と平和に貢献するならば大いなる称賛に価する。